



らのイナん

#15

はじめての対談編

著: 藍澤たすく

イラスト: かもめ遊羽

らのけんってどんなお話?

三郷^{みさと}学園高校「ライトノベル研究部」

——通称らのけん。

それは世にあふれるラノベを読みまくり、また自らも書きまくり、総合的にラノベへの造詣を深めることを目的とした志^{こころ}しの高い部活動……。のはず、なんだけれど……。アレ? 実際フタを開けてみたらなんか思ったよりゆるくない?

だがしかし! それこそが「らのけん」の魅力! という感じで展開するまったく系日常部活コメディなのです!



緑川萌

ラノベと動物をこよなく愛する素直でまっすぐな女の子。その直情径行さゆえに突っ走ってしまうことがあるのはご愛嬌。



白井華子

らのけん顧問教師……。のはずが、見た目が一番幼いのため、部員からも「華ちゃん」と呼ばれ親しまれる癒し系な存在。覆面ラノベ作家一条れんとしても活躍中!



赤城操

クールビューティーな眼鏡っ子。微に入り細を穿つ綿密な設定作りには、らのけん内でも定評がある。校正能力もプロ並み。



黒田美玖

愛情表現がセクハラチックなボーイッシュ女子。いつもそのターゲットにされる華子の苦労は、推して知るべし。何気にミステリラノベ好き。



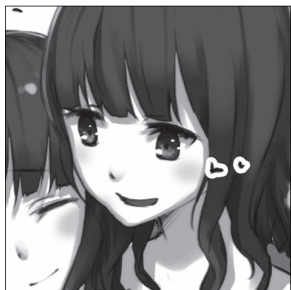
紺野司

ラノベ作家としての華子、つまり一条れんを担当する編集者。AG文庫編集部に所属。天然な華子の創作活動を、陰に日向に支えてくれる心強い存在。



青山一斗

らのけんの黒一点。なんにでもすぐに首を突っ込みたがる好奇心旺盛な性格の持ち主。



白井咲耶

華子の弟であり、かつ男の娘。見た目は華子そっくりでまるで双子のよう。
※ただしサイズは全然違う模様。



蔵内豪三郎

本名は蔵内・マリアンヌ・葉子。華子のデビュー作まんみのイラストを担当するイラストレーター。華子にやや危険な方向の好意を抱いている御様子……？



「うーん、やっぱ緊張しちゃいますぅ……」

「ははは、大丈夫ですよ、白井さん。そんなに緊張するような企画じゃないですから。はい、リラックス、リラックスー♪」

「でもお……」

弱気になる華子^{はなこ}を、担当編集の司^{つかさ}がいつもの爽やかな笑顔で元気づける。

華子にとってはすでに通い慣れたAG文庫編集部だが、今日はいつもの打ち合わせとは訳が違^{ちが}う。

そう、今日はなんと華子と同じくAG文庫大賞からデビューした新人作家さんとの初めての対談の日なのである！ ちなみに対談の様子は来月のAG文庫マガジンに掲載の予定だ。

「あの……桐咲^{きりさき}なずな先生ってどんな方なんですか……?」

華子がおずおずと今日の対談相手の事を司^{つかさ}に訊ねる。

「そうですね、白井さんもご存じの通り、桐咲先生は去年のAG文庫大賞を受賞されて、現在は『神威^{かむい} THE BLACK』シリーズを執筆されてらっしゃいます。そして桐咲先生は、なんとなんと現役女子高生作家さんなんですよ!」

「ええ!? そうなんですか!? 『神威 THE BLACK』ってすごい俺TUEEEEE中二バトルだから、てつきり男の人が書いてると思ってました! しかも現役女子高生って……あたしよりもむちゃくちゃ若いじゃないですか……めちゃくちゃ才能あるじゃないです

か……あたしなんだか余計に緊張してきちゃいましたあ……はあ……」

「まあまあ白井さん、そうへこまずに……。今日は新人作家同士、ざつくばらんに作品の話やAG文庫大賞の話なんかをしていただければ大丈夫ですから。気軽にいきましよう！ あ、ちようど、あその打ち合わせスペースでうちの神崎と桐咲先生が打ち合わせしてますよ」

司がこやかに編集部に向こうにある打ち合わせスペースを指さした。

そこには真剣な表情で打ち合わせをする清楚なワンピースを着たポニーテールの女の子がいた。

おそらくあれが桐咲先生ということなのだろう。

「！」

が、華子は一目桐咲の姿を目にするや、その場に立ち尽くし、だからだと大量の汗をかき始めた。まるで溶け始めのアイスバーである。

「？ 白井さん、どうしました？」

「き、緊急事態です！ 緊急事態です、紺野さんー！」

心配そうに覗き込む司の両手を、華子はぎゅっと握りしめると急いで廊下の方に彼女を引っ張り始めた。

「ちよ、ちよつと、白井さん！」

司は訳が判らないまま、編集部をあとにさせられるのだった……。



「えーっ!? 桐咲先生って白井さんの学校の生徒さんなんですかー!？」

「はい、間違いありません……彼女の名前は白王院千鶴さん……二郷学園高校生徒会長を務める才女で、学園の人間なら彼女を知らない者はいないくらいの有名人なんです……」

「へー、桐咲先生がねえー」

司は感心した様子でふむふむと頷いた。

「感心してる場合じゃないですよ、紺野さん！ あたしが彼女と対談するってことは、学校にあたしがラノベ書いてるのがバレちゃうってことじゃないですかー！」

「あ、そうか、白井さんの学校は副業禁止なんですってつけね。これは困りましたね、どうしましう……」

「あの……大変恐縮なんですけど、なんとか今日の対談、キャンセルさせていただけないでしよつか……?」

華子が申し訳なさそうに、上目遣いで司を見つめる。

「うーん、桐咲先生もお忙しいお方で、やっと今日だけスケジュールをいただけたんですよ。それに対談相手にも白井さんをわざわざ指定されたそうですし……それを当日キャンセルする

となると、それなりにしっかりと理由がないと……」

司は困った様子で頬に手を当てる。

「でもでも、学校にバレるわけにはいかないですよー」

対する華子はもうすっかり涙目で司にすがりついてくる始末である。

「うーん、しょうがない。じゃあ、やっぱりお断りしますか……神崎に何て言おうかなあ、言いつらいなあ……あつー」

そこで言って司はぼんと手を叩いた。

「白井さん、いい手があります！ これなら対談をしても、桐咲先生には白井さんのことは絶対にバレません！」

「え？ そんなすごい方法があるんですか？」

「はい、私に任せてください！」

司はとても良い表情でサムズアップしたのだった。



「失礼いたします、桐咲なすなで……」

対談用に用意された応接室に入ってきた桐咲はそこまで言って動きを止めた。

なぜなら対談相手の一条れん先生が座っているはずの向かいのソファに、ゆるキャラの着ぐるみが鎮座していたからだ。

白い円柱状の胴体にファンシーでカラフルなヒラヒラがたくさん巻き付いている。あちこちに配されたスパンコールが目眩しい。首に提げているのは魔法少女が身につけるような大きな宝石のネックレスだ。申し訳程度に胴体から伸びた4つの突起物はおそらく手足なのだろう。そんな中、黒いボタンが縫いつけられただけの、つぶらな瞳がちぐはぐな存在感を誇示していた。

はつきり言ってコンセプトのよく判らない着ぐるみだった。

「は、初めましてなっしー！ 一条れんだなっしー！」

着ぐるみがどこぞのゆるキャラまるバクリの挨拶をしてくる。

約5秒間の沈黙。

「すみません。どうやらわたくし、部屋を間違えたようです」

「あつ、あつ、ちよつと待ってください、桐咲先生ー！」

ドアを閉めて退出しようとした桐咲を、着ぐるみの横にいた司が慌てて引き留める。

「驚かせてしまってますみません！ でもこれは真正正銘の一条先生なんです。実は一条先生は極度の対人恐怖症でして、こうしないと初対面の人と喋ることができないんです！」

「申し訳ないなっしー！ 申し訳ないなっしー！」

「あの、一条先生も桐咲先生が混乱されますから、余計なキャラづけはしないで下さい」
 「あ、すみません……なっしー無っしー……」
 約5秒間の沈黙。

「そう、なんですか……」

まだ納得がいつていないのか、ちよつと訝しげな表情を浮かべながら、桐咲は一条れん、すなわち華子（in着ぐるみ）の対面のソファに座った。

ちなみにこの着ぐるみ、A G文庫黎明期に人気のあつた某作品のマスコットキャラであるらしい。編集部の奥にしまわれていた物を司がわざわざ引っぱり出してきたという訳だ。

「おや、神崎がいないようですが……」

司がきよろきよと辺りを見回す。

「あ、神崎さんでしたら次の打ち合わせで外出されました。あとは紺野さんにお任せします、とのことです」

「ああ、そういえばそう神崎から聞いておりました、失礼いたしました。では本日はよろしくお願ひいたします」

淡々と報告する桐咲に、司は深々と頭を下げる。

続いて着ぐるみの華子も一緒に頭を下げる。
 が。

「あわわわっ!？」

頭の方に重心があるせい、そのまま華子はごろんごろんとソファから転げ落ちてしまふ。しかも。

「こ、紺野さん！ 緊急事態です！ 緊急事態です！ 起きられませーん！ まったく起き上がれませーん!!」

着ぐるみの中の華子は仰向けになつて手足をじたばたさせるが一向に起き上がれない。どうやらこの着ぐるみは一度倒れると二度と起きあがれない、「七転び零起き」の恐ろしい着ぐるみのようだ。

「はい、一条先生、私にしっかりとつかまってください……じゃ、行きますよ、よっころ……しよつと!」

「ふにゃー……」

司の力を借りてようやくソファに座り直した華子だったが、この時点で今日の体力の8割は消耗していた。この先の対談が超不安である。

「……可愛い……」

その時、桐咲が囁くように、その声を洩らした。

「え？ 何かおっしゃいましたか、桐咲先生？」

「いえ、なんでもありません」

桐咲はこほんと小さく咳払いをして姿勢を正す。

「一条先生の『まんみー』シリーズ、いつも楽しみに拝読させて頂いております。一条先生の描かれるキャラクターはどの子も活き活きしていて、大変魅力的で、わたくしとてもうらやましく思っています」

「いえいえ、そんなことないですよー！ 桐咲先生の『神威』シリーズの方がめちゃめちゃかっこよくて最高です！ 特に最新刊で神威がジェンガルズ・スレイヤーを斬り捨てるところとか、すごい無慈悲というかクールというか……あたし読みながら鳥肌たっちゃいました！」

「ありがとうございます」

桐咲は華子に深々と頭を下げる。

つられて華子も頭を下げそうになったが、先ほどの二の舞になるのを恐れてなんとか踏みとどまった。

華子は着ぐるみの両手をわきわきと動かしながら喋り続ける。

「あたし、女の子キャラを描くのは好きなんですけど、男の子って結構苦手で……だから神威みたいに魅力的な男の子ってどうやって描けばいいのかなっていつも思いながら読ませていただいています」

「ありがとうございます」

再び桐咲が深々と頭を下げる。

華子はまたつられそうになるのをぐっと我慢する。

「でも桐咲先生って学校じゃ凄く理知的でクールな感じだから、こういう激しいバトルな作風とか、全然結びつかなくて最初はびっくりしました。あたしてつきり男の人が書いてるかなと思って……」

「……学校？」

桐咲が訝しげな表情で華子の台詞を遮った。

華子が不用意に発した「学校」というキーワードが桐咲のセンサーにひっかったようだ。その瞳にはありありと当惑と疑念の色が浮かんでいる。

「あ、その、あたし紺野さんから桐咲先生が現役女子高生作家だって聞いてまして！ それですごいなって思ってた！ あの、その、この」

華子が慌ててしどろもどろに弁明する。

「ではどうして、学校でのわたくしの様子まで知ってらっしゃるんでしょう……？」

「はっ!?」

思わぬ追撃に華子は動きを止めた。

そしてどういう原理だか、着ぐるみの上からだらたらと大量の汗をかき始めた。

「すみません、桐咲先生！ 実は私が神崎から桐咲先生の学校での様子を小耳に挟んでまして……それで世間話ついでに一条先生にお話しして……」

司が慌てて華子の横からフォローを入れる。

華子もそれに乗って、両手をバタバタさせながら弁明を続ける。

「そ、そうなんです！ 実あはたし、紺野さんから白王院さんのことを聞いてまして……」

スッ。

桐咲が無言でソファから立ち上がった。

華子はその瞬間、桐咲の本名を口走ってしまった自分に気がつき、完全にフリーズしてしまった。

そのまま桐咲なすな……すなわち白王院千鶴は無言で華子の方に近づいてくる。

（お、終わりだわー！ バレちゃう！ 白王院さんにあたしのことバレちゃう！ そして学校もクビになっちゃうー!!）

華子がぎゅっと目をつぶってそう覚悟した瞬間。

「もう、我慢できません……！」

「ふあっ!？」

華子が着ぐるみごと千鶴に抱きしめられた。

「こ、こんな可愛い着ぐるみで、そ、そんな可愛い動きをされたら……わ、わたくし、もう我慢できませんー!!」

「ふええええっ!？」

着ぐるみの華子を抱きしめ、スリスリと頬すりする千鶴。

その頬は紅潮し、瞳はうつとりと潤んでいる。

どうやら千鶴はこういった可愛いモノに目がないようだ。

（な、なんか、白王院さん、学校とキャラが全然違うー!!）

（まあまあまあ、いいじゃないですか。どうやら白井さんのことはバレなかったようですし、結果オーライですよ）

華子と司が着ぐるみ越しにそうアイコンタクトを交わす。君たちはエスパーですか。

「それに、ずるいです！」

「はい？」

千鶴が突然頬を膨らませながら、司に詰め寄ってくる。

「一条先生ばかり、こんな可愛い着ぐるみ着てずるいです！ わたくしもこういう可愛いのが着たいです！」

「はああああ!？」

千鶴の申し出に華子と司は同時に目を丸くするのだった。

そして翌月のAG文庫マガジンには、なぜか史上初の着ぐるみ同士の新人作家対談の記事が掲載されたのであった……。

そしてそれがなぜか好評で、この着ぐるみ対談はAG文庫マガジン名物として連綿^{れんめん}と受け継がれていくことになるのであった……。まったく世の中判らないことだらけである……。

つづく

●「らのけん！」シリーズ掲載号一覧

★2014年

- GA文庫マガジン7月24日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン9月合併配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン10月27日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン11月27日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン12月25日配信号…らのけん！

★2015年

- GA文庫マガジン1月22日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン2月26日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン3月26日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン4月24日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン5月28日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン6月25日配信号…らのけん！
- GA文庫マガジン7月23日配信号…らのけん！

2 夢の最終選考編

3 はじめてのおつか……うちあわせ編

4 思い切って告白しちゃうぞ編

5 ペット攻めたり編

6 はじめての発売日編

7 かんこれ、始めました編

8 MISAO STRIKE BACK編

9 はじめてのこあいなつ編

10 その薔薇の名は……編

11 咲耶、襲来！ 編

12 ライトノベルが出来るまで編

G A 文庫マガジン 8月21日配信号…らのけん！
G A 文庫マガジン 9月18日配信号…らのけん！

13 もっとも冴えた3つのお題編
14 華子、風邪をひく編